

問1 江戸時代の大阪は「天下の台所」と呼ばれましたが、その理由を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2019年 愛知公立

入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 全国の諸藩が年貢米や特産物を売り出すための蔵屋敷を置き、物資の流通拠点となったため。 | 2. 将軍の膝元として政治の中心地となり、武士が必要とする生活用品がすべて生産されたため。 | 3. 日本海側から江戸へ直接物資を運ぶ東まわり航路の終着点として、巨大な市場が形成されたため。 | 4. 外国との貿易が唯一認められた港を持ち、海外の珍しい産物が全国へと送り出されたため。 |
|---|---|---|--|

問2 19世紀初頭、江戸幕府の命により日本全国の海岸線を実際に歩いて測量し、方位や距離を細かく記録することで、きわめて精度の高い実測地図を完成させた人物は誰ですか。（2018年 東京都公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 伊能忠敬 | 2. 間宮林蔵 | 3. 杉田玄白 | 4. 最上徳内 |
|---------|---------|---------|---------|

問3 江戸時代、伊勢出身の商人が江戸に開店し、それまでの商習慣とは異なる画期的な販売方法によって大きな成功を収めた呉服店とその一族の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2018年 愛知公立入試 類似）

- | | | | |
|------------|------------|-------------|-------------|
| 1. 三井家と越後屋 | 2. 平清盛と三井屋 | 3. 織田信長と越後屋 | 4. 足利義政と越後屋 |
|------------|------------|-------------|-------------|

問4 江戸時代の政治改革において、老中の田沼意次が行った政策とその辞任に至る背景について述べた文として、正しいものはどれですか。（2017年 群馬県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 株仲間を積極的に公認して運上・冥加という税を徴収したが、浅間山の天明の噴火による飢饉や将軍の死去によって失脚した。 | 2. 株仲間の解散を命じて物価の下落を狙ったが、天保の飢饉による社会混乱の責任を問われて罷免された。 | 3. 参勤交代の制度を整えて大名の統制を強めたが、キリスト教の弾圧を巡る不備を理由に職を退いた。 | 4. 公事方御定書を制定して裁判の基準を設けたが、長崎貿易の不振による財政赤字の責任をとって辞任した。 |
|--|--|--|---|

問5 薩摩藩が奄美大島などで行った砂糖の専売制について、当時の生産現場では武士が作業を厳しく監視する体制がとられていました。このような厳しい管理が行われた理由として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 滋賀公立入試 類似）

- | | | | |
|---|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 生産者に自由に取引をさせず、藩が安値で独占的に買い上げる仕組みを維持するため | 2. 砂糖の製法が他藩へ流出するのを防ぎ、特産品としての価値を守るため | 3. 過酷な労働環境にある島民の安全を確保し、生産意欲を向上させるため | 4. 海外への輸出を拡大するために、砂糖の品質を全国統一の基準に保つため |
|---|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|

問6 江戸時代、農村において菜種などの商品作物の栽培が広がり、農民が貨幣を用いて肥料や日用品を購入するようになった理由として、最も適切な背景はどれですか。（2022年 福岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 都市の発展により、灯火用の油や衣料の原料となる作物の需要が高まり、市場での売買が活発になったため。 | 2. 幕府が年貢をすべて貨幣で納めるよう命じたため、食料自給を止めて換金性の高い作物の栽培に専念したため。 | 3. 鎖国によって海外からの肥料輸入が途絶えたため、農民が自ら商品を作って国内市場を独占しようとしたため。 | 4. 大名が参勤交代の費用を捻出するために、領内の農民にすべての土地で菜種のみを栽培するよう強制したため。 |
|--|---|---|---|

問7 江戸時代の農業の発展に関する説明として、技術の進歩と生産基盤の拡大の両面から述べたものとして最も適切なものを選びなさい。（2022年 鳥取公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 幕府や諸藩による新田開発で耕地が広がり、千歯こきの普及で脱穀の効率も向上した。 | 2. 斑田収授法によって農民に土地が分配され、大規模なコメの生産が始まった。 | 3. 小作争議の解決のために地主が農具を無償提供し、農業の機械化が急速に進んだ。 | 4. 綿糸の輸出による外貨獲得を目的として、全国の田が綿花畑へと転換された。 |
|--|--|--|--|

問8 江戸時代、灯火用の燃料として欠かせなかった菜種油の流通について述べた文として、当時の社会経済の仕組みを正しく説明しているものはどれですか。なお、当時の統計資料によれば、大阪には各地から原料となる菜種が集まり、加工された油が各地へ送り出される一方で、江戸で消費される菜種油の約8割が大阪を経由して運び込まれていました。（2019年 三重公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 各地で生産された菜種の種子を大阪に集めて油に加工し、最大の消費地である江戸へ供給した。 | 2. 江戸周辺の農村で栽培された菜種をすべて大阪へ送り、大阪の特権商人が独占的に西日本へ販売した。 | 3. 幕府が直接菜種の栽培を管理し、江戸で加工した油を「天下の台所」である大阪へ輸出して利益を得た。 | 4. 鎖国体制の影響で海外から輸入された菜種を、長崎から大阪へ運び、全国の農村へ燃料として配分した。 |
|--|---|--|--|